

米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画への私見

2019年3月18日

吉野 立

1. 地域福祉を推進する上での米子市の課題

- ・ 少子高齢化、生産人口の減少に伴い、担い手確保、財政面での困難がより大きくなる。
- ・ 計画が個別的であり、解りづらいことから、住民自身が地域づくりを“自分事”として受け止め、関わる必要性を意識することが出来ない。
- ・ 相談、支援の仕組みが病気別、障害別、子ども、高齢者など縦割りで、地域で暮らすという共通の仕組みになっていない。
- ・ 計画を推進する官民の母体がないため計画の進捗の点検と検証が充分でない。

2. 自分事として住民に解りやすい米子市の地域福祉推進の大方針を明確にする

例えば

健康寿命日本一の米子市へ～支える人を増やし、子どもから高齢者、病気や障害があっても安心して暮らせる地域づくりをすすめます～

3. 大方針に基づいて、元気な時から取り組む地域での活動を明確にする

例えば

- ・ 健診の強化：子ども、40歳からの生活習慣病対策強化と認知症チェックを追加
- ・ 住民主体のフレイル予防の推進
- ・ 地域見守り、地域交通、買い物、災害時対応の検討と対策づくり

■元気な時から取り組む地域での活動をすすめる地域拠点として公民館はどうあるべきか

■元気な時から取り組む地域での活動をすすめるための地域会議はどのような構成で組織されどのように運営されることが必要なのか

例えば

- ・ 従来の地域ケア会議プラス、地域の企業やNPO、介護・福祉などの事業所、市の職員の地域担当などにより構成することはできないのか。

■元気な時から取り組む地域での活動をすすめるための財源はどの程度確保できるのか

3. 大方針に基づいて、子育て、病気や障害を持った時の相談、切れ目のない支援活動、体制を明確にする

例えば

- ・ 子ども、障害、介護に関する総合相談体制はできないか
- ・ 総合的に対応できる人材の育成をどのように行うか
- ・ 切れ目のない支援をおこなうための各支援サービスの検討と新たな支援の仕組みづく

りをどのようにすすめるか

・現在の支援の体制、サービスなどの問題点の整理と対策を明確にする

- 子育て、病気や障害を持った時の相談、切れ目のない支援活動、体制づくりを推進する母体（会議）をどのような構成で組織しつくるか
- 子育て、病気や障害を持った時の相談、切れ目のない支援活動、体制ための財源はどの程度確保できるのか

4. 大方針を総合的に推進、進捗の点検をおこなう機関を設置する

方針を具体的にすすめるためには強力なリーダーシップが必要となる。そのための機関としてはどのようなものが良いのか検討する。

上記の地域会議、推進会議を連動し、総合的に大方針を推進するための機関